

消費者からの 電波の有効利用について



2012.6.5

主婦連合会 木村たま代

電波は双方向のツール

電波は



「一方的に受け取るもの」から
「双方向のコミュニケーションツール」へ

情報化社会での生活に欠かせない存在
(携帯電話、スマートフォン、無線LAN、家電のリモコンetc.)



電波を安全・安心に利用するためには
どうすればいいのか？

電波の利用に求めること

電波は公共性が高く、社会基盤として欠かせない

- ・安定した利用状態
- ・提供される内容が適切
- ・適正な利用料金、機器
- ・利用しやすさ(使い勝手、契約など)
- ・地域性(遠隔地・地域独自)
- ・有効に利用されること

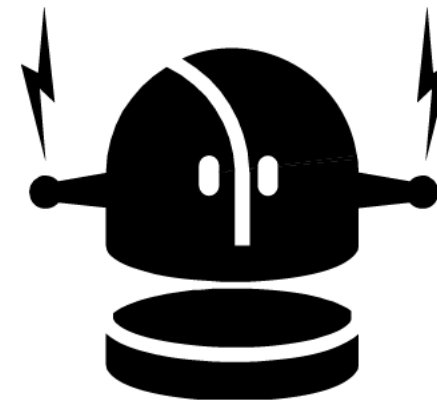


消費者にとって、重要なライフライン

消費者から見た現状の問題点

- ・電波の利用が増加⇒電波の干渉・漏えい
ノイズ、効率低下、誤作動など
- ・製品、規格の乱立
- ・セキュリティ、リスク管理(保全)
- ・ログの管理(利用者情報)
管理体制が未整備
- ・使い方が複雑、わからない
- ・料金が高い、不透明
- ・電気がないと使えない
- ・人体への影響は？

電波は見えないから
不安・わからない



消費者は何に気を付けて利用すればいいのか？

電波の活用において今後懸念されること

- ・制度改革による消費者への負担
- ・利用料金の増加
- ・買い替える機器の廃棄
- ・サービスの継続性
- ・メンテナンス
- ・地域によるサービスの差異
- ・緊急時の対応(通信機能・バックアップ)
- ・セキュリティ
- ・電波利用料やオークション代金の活用方法
- ・投機性
- ・業者による電波の買占め
- ・複雑なサービスや契約での消費者トラブル



...など

電波の有効利用の検討の方向性①

利用者目線の検討が不可欠

- ・電波の有効利用には行政の省庁の枠を超えた取り組みを
例)遠隔地の医療利用、電気自動車の充電 など
- ・電波の基準認証制度の見直し
違法電波の取り締まりや混線の解消への対応
- ・製品や仕様の標準化
ハード、ソフトの両面で必要
ハードの例)携帯電話の充電コネクタの形状
ソフトの例)携帯電話の入力方法
- ・省エネ、節電、電気がないときの対応



電波の有効利用の検討の方向性②

利用者目線の検討が不可欠

- ・消費者にわかりやすい利用システム
 - 使い勝手、契約、利用料金、相談窓口、廃棄...
- ・セキュリティ、情報の管理
- ・消費者への広報
 - リテラシーの向上のためには
 - 当事者に情報が確実に届く方法
 - 継続的な情報提供
- ・電波利用料金の課金制度の明確化
- ・人体への影響
- ・災害時・緊急時の対応は緊急課題 ...など



特に緊急対応が必要な災害時・緊急時

通信は重要なライフライン

災害時・緊急時に連絡を取りたい、情報が欲しい

しかし!携帯電話が繋がらない、テレビやネットの情報が届かない

電波は設備や電気がないと使えない



災害時・緊急時にも確実に使える通信手段の構築

とりあえずの代替手段は、Wifi、mail、SNS...



地域のネットワーク、事業者と利用者の連携

行政による人的・財政的支援

災害時対応のシュミレーション

蓄電池や太陽光電池などの活用、衛星通信手段

バックアップ体制の整備

電波以外の併用(電話、テレビ、ラジオ、郵便...)

